

ちゅうおう

第212号 2025年



大村市

長崎県県央振興局農林部（中央家畜保健衛生所）

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331（代）（休日、夜間も携帯電話に転送されます）

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課：s34500@pref.nagasaki.lg.jp

防疫課：s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課：s34520@pref.nagasaki.lg.jp

[防疫課]

E-mail



[家保HP]



HP：<http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html>

[目次]

P.2… 豚熱清浄化ロードマップの策定について

野生イノシシ検査情報

P.3… 次シーズンに向けた高病原性鳥インフルエンザ対策について

建設業協会会員を対象とした埋却地演習を実施

P.4… ランピースキン病に関する家畜伝染病予防法に基づく政令について

ランピースキン病の対策 ～第80回九州・山口病性鑑定協議会より～

P.5… 家畜衛生対策推進会議および長崎・県央地域飼養衛生管理指導強化推進協議会を開催

飼養衛生基準見直しのポイント

P.6… 県外からの導入牛はヨーネ病検査が必要です！

令和7年度長崎県家畜保健衛生業績発表会および第66回九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会

豚熱清浄化ロードマップの策定について

令和7年6月、農林水産省は「豚熱清浄化ロードマップ」を策定しました。ロードマップでは、5段階のフェーズが示され、清浄国ステータス取得を目指します（下表）。

ロードマップに沿って対策を進めるためには、飼養衛生管理の徹底や効果的なワクチン接種が重要となりますので、生産者の皆様におかれましては、引き続きの取組みをよろしくお願いいたします。

〈豚熱清浄化ロードマップの各フェーズの概要〉

フェーズ名	フェーズの概要
0期	現在のフェーズ（可能な限り早期のマーカーワクチンの実用化を目指す）
▼	
I期	現行ワクチン接種豚をマーカーワクチン接種豚に置換するフェーズ (移行時期：2035年頃)
▼	
II期	感染抗体陽性豚をゼロにするフェーズ (移行時期：2045年頃)
▼	
III期	清浄国ステータス取得要件に適合させるフェーズ (移行時期：2050年頃)
▼	
IV期	清浄国ステータス取得後のフェーズ

各フェーズの詳細は、農林水産省ホームページを参照ください。



QRコード
農林水産省HP 豚熱

野生イノシシ検査情報

県内における野生イノシシの豚熱（CSF）の感染確認は、8月5日現在13件で、松浦市福島町の10件、同市今福町の2件と同市志佐町の1件となっています。これまで、野生イノシシの感染拡大防止のための豚熱経口ワクチンについては、5月までに感染確認地域で3回の緊急散布が行われたほか、6月と7月にそれぞれ定期散布が実施されています。

また、佐賀県においては唐津市、伊万里市、武雄市、多久市などで99件、宮崎県においても都城市と高原町で計7件の野生イノシシでCSFの感染が拡大しています。

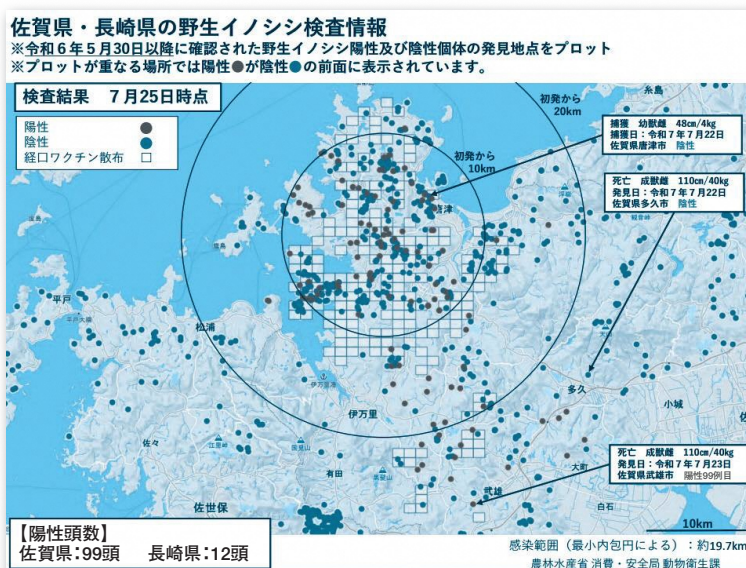
なお、県内のサーベイランスの実施状況は以下の通りです。

〈R7年度県内サーベイランス実施状況〉

	実施頭数 (うち陽性頭数)
県内	144 (8)
管内	64 (0)

※令和7年8月5日現在

最新の状況は長崎県HPを参照ください。



長崎県と佐賀県における野生イノシシの検査状況



QRコード
長崎県HP 野生イノシシにおける感染確認

次シーズンに向けた高病原性鳥インフルエンザ対策について

「2024年～2025年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査報告書」より

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）は、R6年度シーズンに14道県51事例発生しており、5シーズン連続での全国的な発生となりました。特に、養鶏密集地域における続発や、発生を経験している農場における再発、大規模農場における発生が確認されました。また、農場へのウイルスの侵入については、野鳥の感染、羽毛や塵埃が飛散しやすいことがリスクとなった可能性が考えられました。

近年の国内および世界各地でのHPAI発生状況を考慮すると、今年も国内にウイルスが侵入する可能性が考えられます。従来対策に加え、以下の対策をお願いします。

○野鳥、野生動物の誘引防止

農場内の乱雑な環境は野鳥や野生動物の隠れ処、すみかになります。資材等の整理・整頓、不要な草木の除去、空き鶏舎の施錠に努めるとともに、野鳥が止まり得る木については、可能な限り枝払いをお願いします。

○家きん舎へのウイルス侵入リスクの低減対策

今シーズンは、衛生管理が相当徹底されている農場においても発生が確認されました。これらの事例については、羽毛や糞便に由来する塵埃を介してウイルスが侵入したことが疑われます。このことから、少なくともシーズン中については入気口へのフィルターや不織布の設置、細霧装置を用いた消毒薬の噴霧などによる対策の検討をお願いします。

○分割管理の検討

大規模農場については、ひとたび発生が起きた場合、家きん製品の供給および防疫作業に要する労力や費用の観点から、影響が大きいと考えられます。万が一発生した場合に備え、殺処分対象となる家きんの数を削減するために、農場の分割管理の検討をお願いします。

一部で通報の遅れが見受けられた事例も報告されています。
異状を発見した場合には速やかな通報を併せてお願いします。



建設業協会会員を対象とした埋却地演習を実施

6月12日（木）、鳥インフルエンザ等の家畜伝染病発生時に、農場で埋却作業に従事する建設業協会会員を対象として、埋却地演習を実施しました。演習当日は雨天となり、予定していた埋却溝の掘削等の実地演習はできませんでしたが、家畜伝染病発生時の埋却作業に係る研修会を行い、最新の疾病発生状況の情報共有、令和4年度に県内で発生した鳥インフルエンザに伴う防疫作業の映像の視聴および防護服着脱訓練によって、防疫作業への理解を深めました。

なお、実施できなかった実地演習については、今秋の実施を予定しています。



研修会の様子



防護服着脱訓練

ランピースキン病に関する家畜伝染病予防法に基づく政令について

昨年11月に福岡県において、ランピースキン病が我が国で初めて発生が確認されました。本病は家伝法上の「届出伝染病」であることから、家畜の所有者に対し、自主とう汰、出荷自粛、ワクチン接種等のまん延防止措置を行うよう支援や指導などが実施されました。

しかし、その後、感染が拡大し、最終的に福岡県及び熊本県において計22事例230頭の感染が確認されました。まん延防止措置が支援や指導にとどまり、法的強制力をもって措置を講ずることができなかったため、十分な防疫対策を実施できなかったことが感染拡大の一因と考えられています。

今後も引き続き我が国で当該疾病が発生・まん延するリスクは十分想定されることから、ランピースキン病発生時に、「家畜伝染病」と同程度の措置を行えるよう、7月28日、政令が施行されました。

〈ランピースキン病に関する家伝法に基づく政令のポイント〉

- ・検査によりランピースキン病の患畜又は疑似患畜と診断された牛は、法に基づく殺処分の対象となります。
- ・法に基づき殺処分された牛は、遅滞なく焼却、又は埋却しなければなりません。
- ・殺処分された牛の所有者には、法に基づき手当金が支払われます。



ランピースキン病の対策 ～第80回九州・山口病性鑑定協議会より～

去る7月に開催された九州・山口病性鑑定協議会において、農研機構動物衛生研究部門の森岡先生から「ランピースキン病について」の特別講演がありました。

ランピースキン病（LSD）は、もともとアフリカで発生していた牛の感染性の皮膚病ですが、2019年に中国に侵入して以降、アジア各国へと広がりました。2023年には韓国でも確認され、国内でも警戒が続く中、昨年11月に福岡県で国内初めての発生が確認されました。

LSDウイルスは、注射針や吸血昆虫によって機械的に伝播します。特にサシバエは、最大8日間ウイルスの感染力を保持することが知られており、牛舎内で大量発生すると、ウイルス拡散のリスクが非常に高いとされています。

現在、国内の最終発生から半年が経過しており、発生した農場にウイルスが残っている可能性は低いと考えられています。しかし、海外からの吸血昆虫の飛来に伴いウイルスが再び侵入するリスクは依然として存在します。そのため、牛を飼育する皆様におかれましては、防虫ネットや殺虫剤等によるサシバエ対策や、牛の健康状態のこまめな観察を行うとともに、LSDが疑われる症状（発熱、皮膚の結節など）が確認された場合は、速やかに当所までご連絡ください。



粘着テープで捕獲されたサシバエ

家畜衛生対策推進会議および 長崎・県央地域飼養衛生管理指導強化推進協議会を開催

6月24日に、畜産に関わる診療獣医師、および市町やJA、振興局の担当者34名が集まり、標記の会議を行いました。家畜衛生対策推進会議では、家畜伝染病の発生防止対策と防疫体制、豚熱等疾病媒介の可能性がある野生いのしし対策、肉用牛生産性向上対策、病性鑑定実施状況について情報伝達が行われました。

長崎・県央地域飼養衛生管理指導強化推進協議会では、飼養衛生管理基準遵守指導に関する7年度の取組計画と、飼養衛生管理基準の見直しについて説明がありました。「ながさき家畜防疫の日」の取り組みについては、従来の実践7項目の確認を継続します。



○実践7項目

1. 立ち入り台帳への記入
2. 手指の消毒(農場入退場時)
3. 長靴(衛生管理区域)の消毒
4. 衣服の消毒
5. 車両消毒
6. 手指の消毒(畜舎入場時)
7. 長靴(畜舎専用)の消毒

飼養衛生基準見直しのポイント

令和7年9月に飼養衛生管理基準が改正される予定です。今回の見直しでは、畜種ごとの防疫体制の強化と、農場規模に応じた管理の明確化が図られています。

家きん(鶏・あひる・うずら・きじ・だちょう・ほろほろ鳥・七面鳥等)

- ・エミューが新たに対象家畜に追加されます。
- ・大規模農場(ウインドウレス鶏舎等)では、入気口の塵埃対策や防疫措置実施体制(人員・資機材)の整備が求められます。
- ・分割管理(複数の衛生管理区域に分けて管理)の導入が推奨されます。
- ・大臣指定区域(発生リスクの高い地域)では、消毒薬の備蓄や野鳥誘因防止対策が義務付けられます。

牛、水牛、鹿、めん羊・山羊、豚・いのしし・馬

- ・上記の畜種に対しても、分割管理の導入が新たに盛り込まれます。
- ・飼養衛生管理区域を複数に分けることで、疾病発生時の拡大防止が図られます。
- ・管理区域の設定にあたっては、家畜保健衛生所の確認・指導を受ける必要があります。

小規模・非商用農場(趣味的飼養等)

- ・商用出荷を行わない小規模農場に対して、新たに飼養衛生管理基準が設定されます。
- ・感染予防と早期発見・通報を目的とした、基本的な衛生管理が中心となります。

その他の改正点

- ・現行基準の重複・類似項目の整理・統合により、現場での運用がより簡素化されます。
- ・分割管理の実施に関するルールが明確化され、農場ごとに対応がしやすくなります。

この改正は、家畜伝染病発生リスクを低減し、農場ごとの防疫体制を強化することを目的としています。各農場においては、対象畜種や飼養形態に応じた対応が求められますので、内容をご確認のうえ、必要な準備をお願いいたします。

県外からの導入牛はヨーネ病検査が必要です！

〈ヨーネ病発生状況〉

年次	国内発生		県内発生	
R3	446戸	957頭	1戸	1頭
R4	519戸	1,147頭	3戸	4頭
R5	471戸	1,060頭	0戸	0頭
R6	525戸	1,198頭	0戸	0頭



削瘦したヨーネ病発症牛
(右下)ヨーネ病発症牛(左)と健康牛(右)の腸管断面

ヨーネ病は、ヨーネ菌（抗酸菌）が感染することで腸管に病変をつくり、「**慢性の頑固な下痢**」を起こす疾病です。国内では年間1,000頭前後が摘発されており、法定伝染病の中で最も発生が多い疾病で、県内でも発生が確認されています。

感染後発症するまでに長い潜伏期間（6か月～数年間）があり、気付かないうちに農場内に感染が拡大し、一度農場に入ってしまうと清浄化までに長期間を要することから、経済的被害が大きくなります。

発生予防には農場に感染牛を持ち込まないことが第一の対策になります。

そのため、搾乳または繁殖に供する目的で県外から導入した牛については、「長崎県ヨーネ病防疫対策要領」に基づき、抗体検査を実施し、陰性と判明するまで他の牛と接触しないよう隔離をお願いします。

牛を県外から導入される際は当所までご連絡ください。

令和7年度長崎県家畜保健衛生業績発表会および第66回九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会

5月28日に長崎県庁において関係機関56名の参加のもと、標記発表会が開催され、全12演題中6演題を当所職員が発表しました。さらに下記の**発表演題No.2および3**は、7月9日に沖縄県で開催された**第66回九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会**において**県代表演題**として発表し、**発表演題No.2**（牧野主任技師）が、9月に東京都で開催される**全国家畜保健衛生業績発表会**での**発表演題**に選出されました。



長崎県家畜保健衛生業績発表会



九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会

【当所の発表演題、所属課班名、発表者名】

1. 管内における牛伝染性リンパ腫対策（肉牛酪農班 下條恵吾）
2. 県央地域における野生イノシシのサーベイランス強化の取組みと豚疾病浸潤状況調査
（養豚養鶏班 牧野央孝）
3. 長崎県での流行性出血病ウイルス6型の流行状況とその関与が疑われる牛の流死産および嚥下障害の発生
（病性鑑定班 井上大輔）
4. 令和6年に県内で確認されたアイノウイルス感染症の一症例（病性鑑定班 中川竜太郎）
5. 県内における豚由来 *Streptococcus suis* の遺伝子解析と薬剤感受性
（病性鑑定班 前田将誌）
6. 県内で分離された鶏伝染性気管支炎ウイルスのSI遺伝子全長の解析と抗原性および病原性に関する考察（病性鑑定班 秦 祐介）